

イケ・サンパークバス停留所に係る色彩基準の適用除外について

1 4つの公園構想とイケ・サンパークについて

豊島区は、平成 27 年に『国際アート・カルチャー都市構想』を策定し、安全・安心の都市空間の中で、誰もが多様な文化を享受し、世界中の人々を魅了するにぎわいあふれるまちを区の将来像として標榜している。文化を基軸に「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」の実現へ取り組んでいるところである。

その取り組みの一つに、4つの公園構想がある。この構想は、垂直方向ではなく、面的な広がりでも都市再生を進めることにより、エリア全体の回遊性を高めていくものである。また、「池袋駅周辺地域基盤整備方針（H30 策定）」では、4つの公園をアート・カルチャー・ハブと命名する重要な都市機能として位置づけ、公園と周辺の民間施設との連携により、交流、表現、発信の舞台であり、アート・カルチャー活動の拠点として育成していくこととしている。

これまで池袋副都心交通戦略により展開してきた歩行者優先のまちづくりに加え、こうした歩行者の回遊行動を支援し、さらに4つの公園を核とする面的な回遊空間の広がりを作り出すイケバスの導入により、「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」としての池袋の個性を際立たせていく。

イケ・サンパークは、4つの公園構想の総仕上げとして本年7月に開園する。区内最大規模の広さを持ち、4つの公園の中心的な位置づけであり、防災公園としての役割はもとより、多くの人々が憩い、そして新たな賑わいを生み出す公園としていく。公園計画では、災害時にも活用できる広幅員のイチョウ並木を南北に貫き、イケバスの経路及び停留所の導入を計画してきたものである。

2 イケバスについて

イケバスは、アート・カルチャー都市構想でも考えている池袋駅周辺の主に4つの公園を回遊し、来街者や交通弱者がストレスなく移動できる新たな移動システムとして、公共交通として昨年11月より運行している。

利用した人たちが、四季折々の風を感じ、移り行く街の姿をゆっくりと見ることにより、まちの新たな魅力を発見することができる。また、イケバスの色彩・デザインは、100年に一度とも言われる豊島区の変革期を迎えるにあたり、ロンドンバスを参考として、池袋の街の色調を踏まえて新たな赤「池袋レッド」を基調としている。池袋の個性を引き立たせるランドマークとして街を回遊し、4つの公園を結ぶことにより、賑わいと活力を生み続ける池袋の街を一層引き立ていくものと期待している。今後、公共交通として「池袋」イコール「イケバス」となるよう広く認識を高めるため、「池袋レッド」で運行経路を統一する。

3 バス停留所について

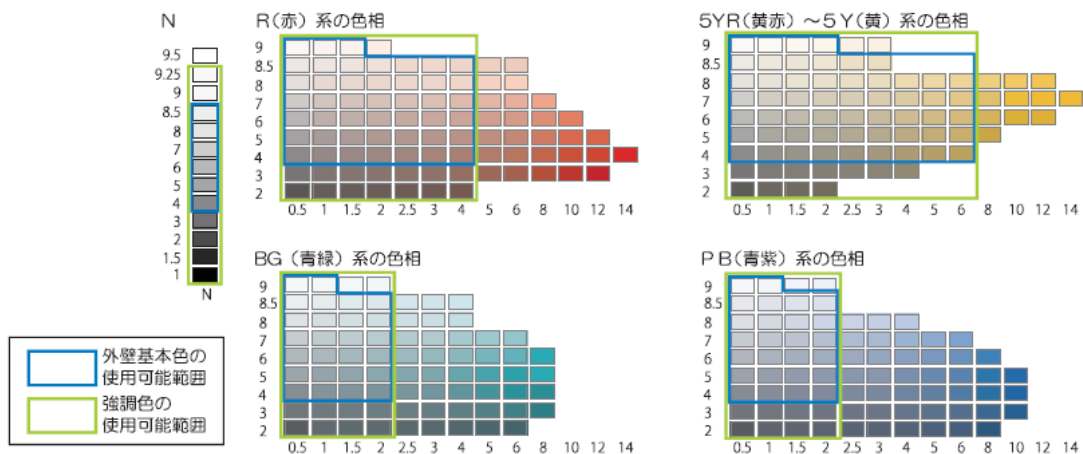
この停留所は待合い機能だけでなく、公園内で遊ぶ子ども達が登り降りする遊具としての機能を持つ展望台であることや、公園のゲートとして、公園のシンボルとなり、そして地域のランドマークとなるべく役割をも担っている。

停留所の外壁の色彩は、本区の景観計画で規定する色彩基準によらない鮮やかな「池袋レッド」を取り入れた計画とした。色彩の選定では、4つの公園をつなぐイケバスの回遊ルートを一貫的に表現するためであり、停留所が地域のランドマークとしてわかりやすく認知されることを期待している。

イケバスという公共移動システムを利用して訪れたイケ・サンパークに、統一感のある色彩やデザインの停留所を設けることは、4つの公園をつなげ、面的な広がりを作り出す本区の取り組みに合致し、本区の個性を発信していくものである。

《参考》 マンセル値について

図表 6-15 使用可能範囲の色彩イメージ（一般地域）



■バス停留所マンセル値

	赤(池袋レッド)
M100+Y100+K5	
DIC 2485 / TOYO CF 10090	

マンセル値： 6.7 R 3.7/11.8